子ども・専門講座９

講座№16309(改)

子どもが子どもを生きること：

**震災、虐待、ＤＶ、いじめ、貧困など日本の子どもの多様な苦しみに対し、**

**今大人がいかに子どもの愛着形成と自己肯定感を守るかを考える**

**期　　日：２０１７年 ３月１８日（土）・１９日（日）**

**受講対象：医療、看護、保育、教育、治療、相談、指導、福祉などに携わる専門家および学生他**

**定　　員：８０名**（定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください）

**受 講 料：１２,０００円**（税込み）　 ※昼食は各自でお取り願います

**会　　場：明治安田こころの健康財団　講義室** ※詳細地図は受講証に添付します

**東京都豊島区高田３-１９-１０　  03-3986-7021**

ＪＲ山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

**主　　催：公益財団法人　明治安田こころの健康財団**

**「子ども不足に悩む国ニッポン」（1997大和書房）を、在日のフランス人社会学者Ｍ・ジョリヴェ先生が出版して20年。今、日本は、総人口の26.7％が高齢者、12.7％が子どもの超高齢少子化社会に入りました。百年後に子ども人口が10%以下に落ちこむと、日本の子どもは絶滅危惧種になると危ぶまれています。今、子どもの数不足だけでなく、ひとりひとりの子どもが、自分に生まれてよかったと思いながら、自分なりの発達課題に取り組めているかが問題です。子どもはカナリヤのように、周囲の対人関係の空気を鋭敏に察して影響を受けます。虐待年間10万件、不登校12万人、ひきこもり50万人以上の数は、戦後の高度経済成長が日本の家庭の自然な愛着形成を阻み、地域社会の温かい親ごころを衰退させたことを物語っています。大人が子どもの身になり大人社会の問題をふりかえり改善しなければ、子どもの瞳の輝く日本を取りもどすことはできないでしょう。**

**「子どもの声は騒音ではない」とドイツ政府は宣言し、国をあげて次世代の幸せに取り組んでいます。ベルリン市内には、第二次大戦後の廃墟に1870カ所の冒険広場が創られ、子どもに開放されています。日本の大人にとっても、子どもの声は、騒音どころか、子ども時代を思い出させるアンチエイジングの特効薬のはずです。**

**本講座は、Ｍ・ジョリヴェ先生を迎え、世界的視野で日本の子どもの健全育成に取り組む児童精神科医、社会学者、弁護士、臨床心理士、小児科医が登壇します。講座１日目は、渡辺が世界乳幼児期精神保健学会の動向を述べ、髙橋睦子先生が未来社会日本の家族政策を提言します。次いでＭ・ジョリヴェ先生が「子ども不足の国ニッポン」について論じ、長谷川京子先生が、DV虐待を含む紛争ケースでの父母の親子面会について述べます。２日目は、臨床現場から酒井道子先生がDVによる子どもの魂の傷つきを、鈴木廣子先生が東日本大震災後の親子のトラウマとレジリエンスについて、菊池信太郎先生が福島県郡山市の小児医療から浮かびあがった日本の子どもの危機について論じます。本講座は、次代の信頼に応えうる成熟した日本社会の実現を目指す方々におすすめします。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　≪企画講師／渡辺　久子≫**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日程 | 時　間 | テーマ　および　講師（敬称略） |
| ３  月  １８  日  （土） | 9:30～10:45 | **乳幼児精神保健からみた日本の子どもの危機**  渡辺　久子（LIFE DEVELOPMENT CENTER渡辺醫院副院長 児童精神科医） |
| 11:00～12:15 | **「子どもと家族に優しい社会 日本」をめざして**  髙橋　睦子（吉備国際大学　社会福祉政策論　教授） |
| 13:15～14:30 | **「子ども不足に悩む国、ニッポン」の今**  ミュリエル・ジョリヴェ（上智大学　社会学　教授） |
| 14:45～16:00 | **ＤＶ虐待を含む紛争ケースでの父母の親子面会**  長谷川　京子（みのり法律事務所　弁護士） |
| 16:00～16:30 | **質　疑　応　答** |
| ３  月  １９  日  （日） | 9:30～10:00 | **２日目のイントロ：今臨床現場で子どもたちは**  渡辺　久子（　前　　　掲　） |
| 10:15～11:30 | **子どもの安心・安全を守る－離婚後の面会交流をめぐって－**  酒井　道子（慶應義塾大学病院小児科　臨床心理士） |
| 11:45～13:00 | **被災を生きる親子のトラウマとレジリエンス**  鈴木　廣子（すずきひろこ心理療法研究室　室長　児童精神科医） |
| 14:00～15:15 | **被災地の子どもから見えてきた日本の子どもの危機**  菊池　信太郎（菊池記念子ども保健医学研究所、菊池医院　院長） |
| 15:30～17:00 | **パネルディスカッション　*－子どもが子どもを生きること－***  パネリスト：出講講師（予定）／司　 会 ：渡辺　久子 |

※講義テーマ、時間配分等変更になる場合がございます。予めご了承願います。

【*プログラム*】